

令和元年6月18日現在

機関番号：34517

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12356

研究課題名(和文)健康の社会格差の視点を包含した社会的弱者に対する保健師活動支援方略の検討

研究課題名(英文) A study on support strategies of Public Health Nurses' activities including the viewpoint of Social disparities in health for socially vulnerable

研究代表者

岩佐 真也 (IWASA, Maya)

武庫川女子大学・看護学部・准教授

研究者番号：70405372

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：【調査1】目的：社会的弱者が多い地域で活動している保健師が、何を大切に活動に取り組み、何を困難と感じているのかを明らかにする。結果：健康課題が多様化し、健康格差が広がる中、保健師は「相手」の「気持ち」や「言葉」を「大切」にしなが、**「家族」全体を見ることを大切にしていた。**【調査2】目的：保健師の健康格差の現状に関する理解を明らかにすること。結果：健康格差の言葉の意味を理解していた者は6割、具体的な健康格差対策を理解していた者は1割にとどまったが、経験年数が増すにつれそれらの理解は進んでいることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会的弱者への保健師による活動の実態を明らかにすることができたことにより、今後、各地域の実情にあった健康の社会格差の視点を包含した活動計画の立案につなげることができる。
社会的弱者に焦点をあてることより、すべての住民を対象とする市町村の保健事業の健康格差をふまえた展開に寄与できる。ひいては、厳しい社会経済背景から増加する社会的弱者の健康の保持増進、健康寿命の延伸、生活の質の向上に貢献でき、それにより市町村の医療や社会福祉に関わる費用抑制に寄与できる。

研究成果の概要(英文)：【Investigation 1】Objective: To clarify the matters that are important to and difficult for public health nurses (PHNs) working in areas with large numbers of socially vulnerable individuals. Results: As health issues become diverse and health disparities widen, PHNs place importance on the feelings and words of others and on looking after the entire family.
【Investigation 2】Objective: To reveal public health nurses' understanding of the current situation surrounding health disparities. Results: Only about 60% of public health nurses understood the term "health disparities", but this proportion increased with increasing experience.

研究分野：公衆衛生看護

キーワード：健康格差 保健師 社会的弱者

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

低所得者層では健診未受診率が高く(厚生労働省,2014) 医療の受診抑制が多いこと(日本の医療に関する世論調査、2008) さらに不健康な生活習慣が多いこと(Shibuya et al.,2002) が明らかになっている。また、低所得や低い教育年数といった社会的経済的背景により、貧困が子どもの健康および成人後の健康に影響を与え(阿部 彩,2013) 慢性疾患の罹患や死亡を増加させる(Ichimura H et al.,2009,Nishi N et al.,2008) ことも報告されている。

WHO は欧米の研究(Marmot,1999,他)の蓄積により、社会経済格差が健康格差を引き起こしているとし、「貧困などの社会経済的要因による健康の不平等を改善するための行動の必要性」を提唱した(WHO,2008)。わが国においては、国民生活基礎調査に基づく分析(Fukuda,2007)や高齢者への大規模研究(近藤,2008)により健康格差が報告され、日本学術会議は2011年に「健康の社会格差」についての提言を発表し、「低所得者層において健康問題が集積するとともに、こうした層が最低限の保健医療福祉サービスを受けられなくなっているのではとの懸念がある」と述べた。わが国のヘルスケアシステムは、自ら健診受診や医療機関受診をする事であるため、自ら支援を求めない社会的弱者がヘルスケアシステムから取り残されることが危惧される。

これらの流れを受け、2012年には健康日本21(第二次)で健康格差の縮小が、2015年の「保健医療2035提言書」(厚生労働省,2015)では、貧困等のハイリスク集団へのサポートを通じて国民の健康を守るための対策を強化することが目標として掲げられた。また、同提言書では保健師による生活困窮者の健康課題解決と健康なコミュニティづくりへの期待が述べられた。

健康の社会格差縮小に向けた取り組みとして、米国では健康の社会格差の定期的なモニタリングから評価、改善策の検討、対策の実施という一連のプロセスがある(US Department of Health and Human Services,2011)のに対し、わが国では静岡県保健師が健診未受診者を訪問し実態把握を行う(高塚,2012)という例が挙げられるだけである。現状では社会格差に注目した活動はほとんどなく(日本学術会議,2011) 保健師の社会的弱者に対する活動実態はもちろんのこと、この課題に対する保健師の認識すら明らかになっていない。

保健師は、社会的弱者救済・支援と健康な社会の建設という理念に基づいた、公衆衛生(實成,2011)を担う専門家である。それ故、社会的弱者の健康実態に関する認識を基にした、保健師の活動支援方略の学術的検討は急務である。

2. 研究の目的

社会的弱者(低所得者層)は、高い割合でヘルスケアシステムの網から抜け落ちており、支援を求める人も求めない人も対象としてアウトリーチを行う保健師が、この現状をどのように認識し、どのような公衆衛生看護活動(以下、活動と略す)を行っているかを明らかにする。

3. 研究の方法

調査A:保健師の社会的弱者に対する健康認識・活動実態面接調査

貧困率・生活保護率の高い地域で活動を行なう保健師への半構成化質問紙を用いた面接調査による、社会的弱者に対する健康認識と活動の実態把握を行なう。

貧困率と生活保護率が共に高値の4都道府県を抽出した。その中から、人口規模階級別市町村数で多い人口規模順に、生活保護率が高値の2市区町村、計8市区町村を抽出した。対象者は、8市区町村の保健分野での実務に携わっている勤続5年以上の保健師、各2名、計16名とした。日頃の活動と健康格差についてのインタビューガイドに則り、半構成化面接調査を行った。調査期間は2016年10月~2017年1月であった。対象者の語りの内容を逐語録としてデータ化し、テキスト型データ解析ソフト Word Miner version1.15を用い、多次元データ解析により、頻度による有意性テストを行った。

調査B:社会的弱者に対する全国市区町村保健師への健康認識・活動実態悉皆調査

保健師面接調査より明らかになった社会的弱者の健康認識や活動実態を反映させた自記式調査票を作成し、全国市区町村保健師への悉皆調査により社会的弱者に対する活動の実態把握を行う。

無記名自記式質問用紙を用いた郵送法による悉皆調査である。対象は、全国1,747市町村・特別区に所属する全常勤保健師28,067人である。各市町村・特別区の保健分野の長に対し、対象人数分の調査資料一式を郵送し、対象者への配布と回収を依頼した。回収された封筒は、無記名で保健分野の長から研究代表者にまとめて返送してもらった。調査項目は、基本属性、健康格差の意味理解と日本の現状に関する理解である。調査期間は2017年10月~11月である。分析は記述統計量の算出と χ^2 検定、残差分析を行った。

4. 研究成果

調査A:保健師の社会的弱者に対する健康認識・活動実態面接調査

同意が得られた9名(5市区町村)の音声データを分析対象とした。データの総文字数は55,999文字、分かち書き数は29,019語で、構成要素の編集を行い全構成要素として12,670語を得た。全構成要素の中で保健師が大切にしていることとして語られた構成要素は、「大切(<0,000)」、「相手(<0,000)」、「気持ち(0.0001)」、「言葉(0.0004)」、「家族(0.0014)」が高頻度の特徴語

として抽出された。同様に、保健師が困難と感じることは、「守れない(<0.000)」、「虐待(0.0001)」、「拒否(0.0003)」、「必要(0.0031)」、「係(0.0045)」が高頻度の特徴語として抽出された。

健康課題が多様化し、健康格差が広がる中、保健師は「相手」の「気持ち」や「言葉」を「大切」にしなが、「家族」全体を見ることを大切にしていた。また、「虐待」事例や訪問などの「拒否」事例に対し難しさを感じており、課や「係」を越えた連携の「必要」性を感じていることが明らかとなった。

調査 B:社会的弱者に対する全国市区町村保健師への健康認識・活動実態悉皆調査

回収数は 14,328 (51.0%)、有効回答数は 13,277 (47.3%)であった。保健師としての平均経験年数は、15.7(±10.1)年で、経験年数区分は 1-5 年が 21.1%、6-10 年が 15.7%、11-20 年が 31.8%、21 年以上が 31.4%だった。健康格差の言葉の意味を理解していた者は、全体で 61.9%であり、具体的な健康格差対策を理解していた者は、全体で 11.9%であった。どちらも、経験年数区分との間に有意な差 ($p<.000$)があった。また 1-5 年、6-10 年では「知らなかった」が「知っていた」より有意 ($p<.01$)に多く、11-20 年では有意な差はなく、21 年以上のベテラン期では「知っていた」が「知らなかった」より有意 ($p<.01$)に多かった。地域格差、経済的格差、性別格差により健康格差があることを知っていた者は、全体で 95.4%、96.4%、48.1%であり、経験年数区分とそれぞれの健康格差の理解には有意な差 ($p<.000$)があった。

健康格差の言葉の意味を理解していた者は 6 割、具体的な健康格差対策を理解していた者は 1 割にとどまったが、経験年数が増すにつれこれらの理解は進んでいることが明らかとなった。地域格差、経済的格差があることを知っている者は 9 割に上るが、性別格差については半数が知らなかった。保健師は、経験的には健康格差の現状を理解しているが、健康格差そのものやその対策については十分理解できていないと考えられる。今後、健康の社会格差の視点を包含した公衆衛生看護活動を行う上で、健康格差についての理解を深める必要性が示唆された。

5 . 主な発表論文等

〔学会発表〕(計 4 件)

Maya Iwasa, Jun Motomura, Sakiko Kanbara, Ritsuko Kaibara, Kyoko Izumi, Natsumi Matsui : Public health nurses' understanding of health disparities: results of a complete enumeration of municipal public health nurses in Japan, 22st East Asian Forum of Nursing Scholars & 12th International Nursing Conferences, 2019.1

Maya Iwasa, Jun Motomura, Sakiko Kanbara, Ritsuko Kaibara, Kyoko Izumi, Natsumi Matsui : Matters important to and difficult for public health nurses working in areas with large numbers of socially vulnerable individuals, 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conferences, p.45, 2018.1

岩佐 真也、本村 純、神原 咲子、海原 律子、和泉 京子、松井 菜摘 : 社会的弱者の健康格差についての保健師の認識、第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集、p.227、2018.1

岩佐真也、本村純、神原咲子、海原律子、和泉京子、松井菜摘 : 社会的弱者に対する保健師の健康認識と健康の社会格差の視点を包含した保健師活動、第 77 回日本公衆衛生学会総会抄録集、p.447、2018.10

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：和泉 京子

ローマ字氏名：IZUMI, kyoko

所属研究機関名：武庫川女子大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号(8桁)：80285329

研究分担者氏名：大野 ゆう子

ローマ字氏名：OHNO, yuko

所属研究機関名：大阪大学

部局名：医学（系）研究科（研究院）

職名：教授

研究者番号（8桁）：60183026

研究分担者氏名：神原 咲子

ローマ字氏名：KANBARA, sakiko

所属研究機関名：高知県立大学

部局名：看護学部

職名：教授

研究者番号（8桁）：90438268

研究分担者氏名：海原 律子

ローマ字氏名：KAIBARA, ritsuko

所属研究機関名：武庫川女子大学

部局名：看護学部

職名：助教

研究者番号（8桁）：50757440

研究分担者氏名：本村 純

ローマ字氏名：MOTOMURA, jun

所属研究機関名：名桜大学

部局名：健康科学部

職名：准教授

研究者番号（8桁）：50632999

研究分担者氏名：松井 菜摘

ローマ字氏名：MATSUI, natsumi

所属研究機関名：武庫川女子大学

部局名：看護学部

職名：助教

研究者番号（8桁）：90806803

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。